

2019年 活動報告

子どもから高齢者まで様々な交通参加者に安全・安心を届ける

2030年ビジョン（P2参照）に掲げた「交通事故ゼロ社会の実現」に向け、Honda安全運転普及本部は2019年も「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を基本として、交通社会の変化やニーズに合わせ、活動を展開した。

ルール・マナーを守ることの習慣化をめざす 小学校高学年・中学生向け新プログラム

子どもたちは幼児期や小学校入学後の交通安全教室で、交通安全の知識や事故に遭わないための安全行動を学ぶ。そこで身につけた知識を、それ以降も行動として実践することの大切さに気づいてもらうため、小学校高学年・中学生を対象とした新たなプログラム「将来 社会で活躍する君たちへ」を開発した。社会生活を豊かに送る上での基本である「ルール・マナーを守り、習慣化させる」ことで、次代を担う子どもたちが交通安全を自分事ととらえ、事故に遭わないようにすることを目的としている。小学校高学年や中学生が歩行中、自転車乗用中にやっつけてしまいがちなルール・マナー違反の映像を見せた後、指導者が問いかけ、児童・生徒の気づきを促す内容となっている。

プログラム本編は「歩き」「自転車」「標識」の3つのテーマからなる映像教材。それぞれ単独で選択できるため、交通安全指導者が学校などの要望や実施時間に応じて組み合わせをアレンジできるようになっているとともに、場面ごとに子どもたちに問いかけながら進める対話型構成になっているのが特徴である。



自転車が一時的停止標識を無視して止まらずに交差点内に入ると、右側から来たクルマと衝突



本編「自転車」の解説編では、自転車に乗っている人の目線の映像で交差点の状況を見せ、停止線の手前で止まった後に、左右を観るなど正しい方法を示す

高齢運転者の方を中心に日頃の意識や 運転行動を振り返っていただく

近年、ブレーキとアクセルのペダル踏み間違いなど「運転操作不適」による交通事故が高齢運転者を中心に目立っている。また、若年層でも「運転操作不適」による事故は多いことから、すべての運転者の方に日頃の運転を振り返りながら「運転操作不適」を防ぐ安全行動の重要性に気づいていただくためのプログラム「みんなで安診（安全運転行動診断）」を開発した。店頭でできる簡単な体験を通じて、「運転操作不適」による事故を防ぐためのポイント「安全確認」「余裕を持った行動」「早めの危険予測」の重要性をお客様に理解していただくことを目的としている。四輪販売会社に展開するための導入研修を全国10ヵ所で実施。受講したスタッフが、このプログラムを活用してお客様への啓発活動に取り組んでいる。



クルマへの乗り込みから発進までに必要なことを確認



簡単な体験を通じて、「運転操作不適」による事故を防ぐための行動の重要性に気づいてもらう

先進の安全運転支援システムの 正しい理解の普及のために

衝突軽減ブレーキや誤発進抑制機能といった安全運転支援システム「Honda SENSING」を普及させるためには、搭載率向上に加え、その効果や機能の限界について正しく理解していただくことが必要である。そこで、四輪販売会社のスタッフが、より正しくお客様に安全運転支援システムの説明ができると同時に、各拠点などで体感試乗会を安全に運営するための研修プログラムを作成。これをもとに、Hondaの交通教育センターを中心にアドバンスドセーフティコーディネーター（※1）研修として実施している。研修を受講したスタッフは全国各地で「Honda SENSING」の体感試乗会を開催。スタッフが運転するクルマで、お客様に衝突軽減ブレーキなどを体感いただいている。

そして、さらに多くのお客様に正しい理解の普及を図るため、啓発動画を作成。安全運転支援システムの中でも、誤解や過信につながりやすい衝突軽減ブレーキに焦点を当て、作動の流れ、天候や道路環境の様々な条件による、機能の効果と限界も解説。また予期せぬ作動時でも慌てず対処できるよう、正しい運転姿勢や荷物の積載についても言及している。この動画は、四輪販売会社のスタッフが携帯しているタブレットで、お客様にご覧いただけるようになっている。

※1 セーフティコーディネーター（SC）は安全運転のアドバイスを行うための社内資格。アドバンスドSC研修はSC資格取得者を対象に、レベルアップ研修として実施



アドバンスドSC研修を受講した四輪販売会社のスタッフが体感試乗会でお客様に「Honda SENSING」の効果や限界について説明



「Honda SENSING」の啓発動画を作成し、四輪販売会社の店頭など、お客様に正しく理解いただくための場と機会を拡大

教育機器の開発と、海外活動への積極的な支援

現在、白バイ隊員をはじめとする二輪車乗務警察官の危険感受性向上の訓練等に活用していただくための教育機器として、Hondaライディングシミュレーター（※2）ポリスタイプを開発中である。車体はライディングシミュレーターを活用し、白バイ隊員訓練用の専用ソフトを新たに開発。白バイ隊員の集合教育などで活用できるようにしている。

海外では、各事業所で安全運転普及活動を担うチーフインストラクターを養成するなど、活動に熱心に取り組む事業所が増える中、グローバルで情報を共有し、課題を議論する場として、安全運転責任者会議を10月に鈴鹿サーキットで開催。海外の9の国と地域から事業所の代表者21名、日本からは各交通教育センターの代表者が出席し、2030年ビジョンに向けた安全運転普及活動の方向性などを確認した。

※2 路上での実施が困難な二輪車の危険予測トレーニングを仮想空間で行える安全運転教育機器



ライディングシミュレーターポリスタイプ（開発中）



安全運転責任者会議